

1. 件名：福島第一原子力発電所における高性能容器(HIC)内スラリーの移替え作業に関する面談
2. 日時：令和4年4月25日(月) 15時05分～16時20分
3. 場所：原子力規制庁6階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
澁谷企画調査官、横山係長、久川審査係、塩唐松係員
福島第一原子力規制事務所
高松専門職(テレビ会議システムによる出席)
東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー
福島第一原子力発電所 担当4名(テレビ会議システムによる出席)

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、高性能容器(以下「HIC」という。)内スラリーの移替えの進捗状況について、資料に基づき、以下の説明があった。
 - 2022年4月25日までに移替え対象HIC(積算吸収線量が5,000kGyを超過したHIC)2基目の移替え作業が完了したこと。
 - 2基目の移替え作業実績について
 - ✓ ダスト濃度測定結果
 - ◇ 移替え対象HIC2基目のスラリー移替え作業中において、有意なダスト濃度の上昇はなかったこと。
 - ◇ 移替え対象HIC1基目のスラリー移送時のダスト発生箇所と推定していたSEDSとHICの接続部について、接続部を養生して、スラリー移送前後でのスミア測定を実施した。
 - ◇ スミア測定結果から、汚染密度の有意な増加は確認されなかったため、接続部からのダスト飛散は無かったものと考えられるが、今後の移替え作業においても、接続部の養生及びスミア測定を実施すること。
 - ✓ 移替え作業後のスラリーについて
 - ◇ 2基目の移替えについては、漏えいリスクのある液体状の放射性物質を可能な限り抜出すことを念頭にスラリー移送を実施したこと。
 - ◇ 移替え対象HIC2基目では、現場作業状況及びSEDS付属のカメラにより中部抜出配管での抜出しが出来ていることを確認したこと。
 - ◇ 底部のスラリーは流動性が低く、底部抜出配管による抜出しが出来なかったため、底部に残ったスラリー量は底部と中部抜出配管吸込みの間までと推定(約2cm～約37cmの間)していること。
 - ◇ 底部に残るスラリーに関しては、今後も継続して抜出方法の改善策を検討すること。
 - ◇ 上澄み水は概ね移送されていることからHICからの漏えいリスクは低減されていること。
 - ◇ 今後の移替え作業でも同程度のスラリーが底部に残ると想定されるため、残ったスラリーの抜出し方法については、これを前提条件として検討すること。

➤ 今後の予定

- ✓ 移替え対象 HIC3 基目は、収納時 Sr-90 濃度が最も高い HIC と移替え対象 HIC2 基目の中間程度を予定していること。
- ✓ 移替え対象 HIC3 基目のスラリー移替えを今年 5 月第 2 週に予定していること。

- 原子力規制庁は、上記説明内容を確認するとともに、以下についてコメントした。

- 今後、移替え対象 HIC3 基目の移替え作業を実施するにあたり、作業に伴うダスト高警報や APD 警報設定値以上の被ばくなど、予期せぬ作業環境の悪化や工程上の不具合が発生した場合、直ちに移替え作業を中断し速やかに規制庁へその旨報告を行うこと。

6. 資料

- HIC スラリー移替えの進捗状況